

令和3年度 自己評価表

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>○社会の中で自立して生活ができる力を育成する ○職業生活に必要な意欲と能力を育成する ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体を育成する</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>社会人・職業人としての基礎的な力の育成（授業改善、職業教育・進路指導、生徒指導、自治活動） 障がいのある人の地域での活躍を目指して（地域・企業連携、部活動等、啓発・広報活動） 働きやすい職場、一人一人が成長できる組織作り（人材育成、時間外業務削減）</p>
---------------------------	---	----------------------	---

年 度 当 初				評 価 結 果 ()月				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策	
社会人・職業人としての基礎的な力の育成	○授業改善 ～「考える力」をつける～	○生徒アンケートより、「勉強がわかる、ややわかる」と回答した生徒が全学年8割だが、「わかる」は5割に達していない。 ○「授業が楽しい」と感じている生徒は5割から8割弱と学年により差がある。	○基礎的な学力が身につく、自らが学ぼうとする意欲が育っている。 ○生徒アンケート「勉強がわかる」「授業が楽しい」が前年度より向上している。	○学習の基礎となる「学習のルール」を定期的に確認する。 ○教科会を設定し、授業の見直しを図る。 ○研究研修担当と連携し授業研究会を実施する。 ○授業改善のために情報発信をする。				
		○異動による教職員の大規模な入れ替わりや様々なキャリア段階の教職員の在籍等のため、生徒が「考える」授業づくりへの取り組みが不十分である。 ○生徒の実態に大きな幅があり、一斉指導の中にも細かな支援や配慮を必要とする。	○授業の中で、生徒の「考える」姿が見られるように、教職員が授業改善に取り組んでいる。	○教科グループで授業づくりの研修会を行い、取り組みについて職員で共有する。 ○授業研究会を行い、授業改善を行う。 ○教育検証プロジェクトに継続して取り組む。(就労準備性チェックリストの実施)				
	○職業教育・進路指導の充実 ～自分を見つめる～	○専門共通目標と各コースの振り返りをシートを使ってやっているが、活用は不十分である。	○コース選択や進路を考えるときの材料として振り返りシートが活用されている。 ○個の目標を設定するときに振り返りシートが活用されている。	○どの場面で活用するのか定期的かつ具体的に提示する。 ○個の目標は、キャリアパスポートに綴られている振り返りシート等を見ながら設定する。(2, 3年)				
		○現場実習での生徒一人一人の課題についてコース担当者で共有できていないコースがある。	○コース担当者が生徒一人一人の課題を把握し、コースの特性を活かしながら、生徒に必要な職業的スキルを伸ばす教育が行われている。	○生徒の課題の共有方法や職業的スキル向上のためにコース内でできることを、コース会の議題にするなど、協議する時間を確保する。				
		○自己理解が難しく、進路選択の見極めが不十分な生徒がいる。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業前スキルが不十分なままに就職する生徒がいる。	(1年生) 自分の良さや課題を理解している。 (2年生) 自分の適性をふまえて、進路を具体的に考えている。 (3年生) 自分の適性をふまえて、進路を選んでいる。	○現場実習の学びが日々の学習や生活につながるように、学年団と進路部が連携して計画的に実施する。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業前スキルを身に付けるきっかけとして、生徒、教職員に対して授業や研修、通信等で卒業後の生活に関する情報を発信する。				
	○生徒指導、生活指導 ～よりよい生活習慣、判断力をつける～	○多くの生徒がSNSを利用しており、トラブルが生じることもある。 ○生徒のみでトラブルに対応してしまい、拡大・複雑化してしまうこともある。 ○睡眠時間の不足や人間関係の悩み等から生活リズムが崩れたり、学習に向かえなかったりする生徒もいる。	○保護者とともに決めた携帯電話等の使用ルールを守ることができる。	○保護者とともに「我が家のルール」を作成し、定期的に見直しを行う。 ○個人懇談等を通じて、保護者と情報共有を行う。 ○具体的なネットトラブル事例を題材とした生徒・保護者・教職員対象の各講演会や研修会を実施する。				
		○挨拶、返事、時間を守るなど基本的な生活習慣や学習・集団規律が習慣化されていない生徒が少なくない。 ○自分の気持ちのコントロールの仕方がわからず適切な表現ができない生徒や自分のよさが実感できず自己肯定感の低い生徒が少なくない。	○生徒自らが生活や学習態度を見直し、よりよくしたり、学習・集団規律を守ったりして生活することがきる。 ○自分の気持ちをコントロールする方法を身につけて生活したり、学習や生活の中で自分の成長を実感したりすることができる。	○基本的生活習慣や規律を守ることがなぜ大切なのかをLHR等で随時指導する。 ○わかる授業を展開し学習規律を徹底するとともに、個に応じた指導を職員間で共通理解し一貫性のある指導を行う。 ○担任面談や職業自立の学習の中で自らの生活や自分自身を見つめ、課題や目標のための行動を具体的にしたり、できるようになったことを確認したりする。				
		○歯と口の健康への意識が低く、歯科検診後の受診行動に結びついていない。 ○歯磨きの習慣は身に付いているが、方法が不十分な生徒が多く、口腔内の清潔が保たれていない生徒が多い。	○自らの歯と口の健康に関心を持ち、課題を見つけ、主体的に行動できる自己管理能力が育成されている。 ○地域や家庭と連携し、関係機関の協力を得ながら課題解決に取り組むことができる。	○関連教科で時期に合わせて取り扱い、理解を深める。 ○委員会活動を通して、啓発を行い理解を深めていく。 ○保護者・地域との連携を強化していく。				

		<ul style="list-style-type: none"> ○自分の課題を意識し、積極的に自分から挨拶できる舎生もいれば、自分から挨拶できない舎生もいる。また、他者からの挨拶を返さない舎生がいる。 ○最初に会った職員1人に挨拶したら、その後に出会った職員に挨拶をしない舎生も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手に聞こえる声で、出会った職員に対して自ら「おはようございます」と挨拶することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○なぜ挨拶をする必要があるのか、自分たちで考える機会を設定する。 ○強化週間を設定し、出会った人に対して挨拶ができるよう習慣づけを図る。 ○定期的に振り返りを実施し、自己評価、他者評価を繰り返す。 		
	○自治活動の推進 ～生徒が考え行動する～	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の中に、自分が生徒会活動の主体となって学校生活をよりよいものにしていくとする意識が少ない面が見られる。 ○琴海会三役を中心に、指示されたことはきちんと協力的にできるが、主体的に自治会活動・行事を企画・運営するところまでは達していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよい学校生活を築こうとする意欲・行動力を身につけ、生徒が自発的に問題点や課題等を改善・解決している。 ○三役を中心に主体的に琴海会の活動・行事に関わり、舎生自ら企画・運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒主体による、全校レクリエーションを行う。(自信につなげるために、無理のない範囲で準備・運営を行う。) ○生徒総会を、年間2回実施する。 ○三役会、各行事実行委員会を適宜開催し、自由にアイデアを出し合いながら、可能な限り自分たちで企画立案・運営が行えるよう支援をする。 		
障がいのある人の地域での活躍を目指して	○学校運営協議会を活用した地域連携・企業連携	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度、3回の会議を実施した。その内1回は、就労に視点を絞って技能検定の様子を参観した後、協議を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い分野から参加していただいているという強みを生かし、各分野からの助言を受けながら本校の取り組みを進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域と連携した取組事例を残していくとともに、現在の状況でできる活動を継続していく。 ○現在も行っている企業との日常的な連携を継続するとともに、新たな企業へ向けての情報発信を行うことで連携を深める。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度は新型コロナウイルス感染症への対応により、企業を対象とした学校公開ができなかった。昨年度、企業情報についての情報提供を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い分野から参加していただいているという強みを生かし、情報提供を受けるとともに情報発信を行うことで連携が推進されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度情報提供を受けた企業へ向けて、本校の情報発信を行う。(学校案内送付・訪問等) ○学校運営協議会において、就労という視点も含めて協議を行う。 		
	○生涯体育、文化、芸術活動(部活動等)の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○参加できる大会が、少なくなっている。そのため、部活動に対するモチベーションが保ちにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動、大会等に自主的に参加する生徒が育っている。 ○将来的にも運動や文化活動に参加できる環境が整っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動参加率を昨年度より上げる。 ○部活顧問会、部長会の活性化を進める。 ○部員、教職員の参加状況を把握し向上させる。 ○HPを利用して生涯スポーツの紹介を行う。 ○生徒の活動場面や大会参加状況の情報発信を行う。(ホームページ・Facebook) ○地域のスポーツクラブや文化活動に参加している生徒の紹介を行う。 		
	○啓発・広報活動の工夫 (保護者、地域住民、小中学校、企業)	<ul style="list-style-type: none"> ○来校・訪問等を通じた地域支援や地域と連携した活動が難しい現状から、これまで行ってきた啓発・広報活動が困難となっている面がある。 ○小中学校は、進路選択に向けた体験や見学等のニーズが高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現在の来校・訪問等を通じた地域支援や地域との連携した活動を継続するとともに、日常的な活動の様子の情報発信が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページの刷新を行う。 ○Facebookを活用し、日常の取組の様子の情報発信を行う。 ○保護者に向けて、ログインページを活用して保護者に学校や寄宿舎の様子を知ってもらえるような取組を継続する。 ○地域のニーズに応えるため、学習場面への参加や公開等の規模や方法を工夫し、実施する。 		
働きやすい職場・成長できる組織作り	○校内組織の改編と校内研修・授業研究の工夫 (人材育成、時間外業務縮減) ○コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度は時間外業務月45時間を越える職員は昨年度いなかった。しかし、個々に見ていくと差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、月45時間・年間360時間を越えない時間外業務とする。(継続・時間外業務減少) 	<ul style="list-style-type: none"> ○衛生委員会において、個々の時間外業務について確認をする。適宜、声かけを行う。 ○時間外業務の差を校内組織という視点で捉え、今年度改変した検証を行うとともに来年度の組織作りにつなげる。(職員アンケート等) 		

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]